

「卒業研究」2年目の実践報告

平成18年度 卒業研究委員会 茂木好和・石井克佳・初谷和行・對崎加奈子
 阪本康之・小清水貴子・小澤真尚・小林美智子
 嶋田昌夫・加藤敦子・工藤雄司・竹内義晴
 石田光枝・中井毅・建元喜寿・田中友紀子

【要旨】

4年前、系列改編に伴う教育課程の再編が行われ、本校の系列学習の集大成として、よりの確にアピールできる科目として「課題研究」を「卒業研究」と改め、必履修科目としてスタートさせ2年目となる。その取り組みについての実践報告である。

【キーワード】 卒業研究、問題解決能力、学習目的意識、課題研究

1. ねらい

本校の教育は、学習目的意識育成型教育を基本とし、その集大成として「卒業研究」を置いている。系列や将来の進路に即した課題の設定、解決への取り組みを実際に行うことによって、自主的な問題解決能力の育成と共に、しっかりとした学習目的意識の確立を図る事である。

1年次では「産社・産理」を通して、将来設計を立て、目標の進路に合った系列及び科目の選択を。2年次からは自ら作成した時間割で学習を進め、3年次でその学習歴や興味・関心、進路に基づいた課題の取り組みを以って、学習目的意識の育成を図っている。

2. 目標

新教育課程以前は、「課題研究」は総合学科の原則履修科目であり、下記の目標が掲げられていた。しかし、新教育課程での「総合的な学習の時間」に、これまで進

めてきた「課題研究」の内容が組み込まれ、総合学科では「課題研究」で「総合的な学習の時間」の代替はできないことになった。また、当時、系列改編に伴う教育課程の再編が行われ、上記のねらいを達成させるためには下記の目標に絞って進めることが重要であるとの考えから、本校の系列学習の集大成として、よりの確にアピールできる科目として「課題研究」を「卒業研究」と改め、昨年度より必履修科目としてスタートさせている。

・課題研究の目標

「多様な教科・科目の選択履修によって深められた知的な好奇心等に基づいて自ら課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てるとともに、自己の将来の進路選択を含め人間としての在り方生き方について考察させる。」(平成5年2月「高等学校教育の改革の推進について(第四次報告)より)

3. 実施上の基本的な取り決め

3-1. 時間割(卒業研究)・「総合的な学習の時間」・「進路研究」)

1学期：「進路研究(月7+火7)」、「総合的な学習の時間(金5)」、「卒業研究(金6・7)の5時間を「卒業研究」の指導にあてる。

	1 学期			火			金		
	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
5									総合学習
6				総合学習	起業基礎				卒業研究
7	進路研究	総合学習	進路研究 (卒業研究)		進路研究	進路研究 (卒業研究)	進路研究	進路研究	卒業研究

2学期：「総合的な学習の時間（金5）」、「卒業研究（金6. 7）」の3時間を「卒業研究」の指導にあてる。

「進路研究（月7+火7）」の2時間は、「卒業研究」の指導が必要な生徒のための時間として利用する。

2学期で「卒業研究」は終了させる。

2学期		月			火			金		
	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	
5									総合学習	
6				総合学習	起業基礎				卒業研究	
7	進路研究	総合学習			進路研究		進路研究	進路研究	卒業研究	

3学期：「卒業研究」は行わない。

「総合的な学習の時間」は卒業に向けた準備の時間とし、クラス担任が指導する。

3学期		月			火			金		
	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	
5									総合学習	
6				総合学習	起業基礎					
7	進路研究	総合学習			進路研究		進路研究	進路研究		

3-2. 指導者

- ・指導者は16名。
- ・系列の選択者の人数によって、系列内で指導者を決める。
- ・生徒約10名に対して指導者は1名。
- ・指導者の選定については系列に一任する。

3-3. 持ち時間

- ・指導者16名の持ち時間は2時間としてカウントする。

3-4. テーマ設定

- ・系列の特徴にそったテーマを基本とする。
- ・系列で取り組んでいるテーマや、継続研究のテーマなどを教員側が示す方法と生徒が自分でテーマを決める方法の両方を可とする。

3-5. 評価

- ・5段階評価をつける

11月：

具体的に研究を始めよう(テーマ提出)

12月：ガイダンス②

テーマ決め・提出

1月：計画・試行

これまでの成果を発表しよう

構想計画書提出

(具体的に取り組んだこと)

2月：本取組

〃

〃

3月：第1回中間発表会資料提出

第1回中間発表会

3年次

4月：ガイダンス③

5月：第2回中間発表会資料提出

第2回中間発表会

6月：中間報告書提出

7月：研究活動

8月：研究活動

9月：完成報告書提出

10月：系列内発表会資料提出

系列内発表会

修正版報告書提出

11月：学年発表会資料提出

学年発表会

2月：校内発表会（研究大会）

4. 年間計画

(1)計画概要（平成18年度）

2年次

アカデメイヤ参加者

9月：

先輩の論文を読んでみよう(1)~(3)

10月：ガイダンス①

自分のテーマをとりあえず決めよう

卒業生の論文を読む

自分のテーマを発表しよう

(2)年間計画表

卒業研究 平成17年度 2年次 年間計画							
学期	月	日	曜日	時間	目標		
2 学期	9	3	土	アカ	先輩の論文を読んでみよう(1)	1. 進路に関連した価値ある研究テーマを設定する。 2. 先行研究を十分に調べ、そこから研究目的、研究方法を明確に記述する。 3. 研究に対して実現可能な計画を立てること。	
		10	土	アカ	先輩の論文を読んでみよう(1)		
		17	土	アカ	先輩の論文を読んでみよう(2)		
	10	12	水	LHR	卒業研究(C-D組)卒業生の論文を読む		
		22	土	アカ	自分のテーマをどあえず決めよう		
		26	水	LHR	卒業研究(A-B組)卒業生の論文を読む		
	11	4	29	土	アカ		自分のテーマを発表しよう
			2	水	LHR		卒業研究(A-B組)卒業生の論文を読む
			4	月	総合		個人研究提出日
		7	5	土	アカ		具体的に研究を始めよう(テーマの提出)
7			月	総合	しおり作成		
9			水	LHR	校外学習の全体説明		
14			月	総合	しおりの製本・確認		
12		2	17	水	LHR	校外学習の全体説明	
			2	金	進路	校外学習(オーストラリア)	
			5	月	総合	校外学習(オーストラリア)	
	7	7	水	LHR	(代休)		
		9	金	進路	校外学習のまとめ①(校外学習直後指導)		
		12	月	総合	卒業研究(進路研究担当者への割り振り・研究の進め方)		
	1	14	14	水	LHR	卒業研究(テーマ決め①)	
			16	金	進路	卒業研究(テーマ決め②)	
			19	月	総合	卒業研究(テーマ決め③提出)	
		21	21	水	LHR	進路探求講座	
11			水	LHR	卒業研究(計画・試行①)		
13			金	進路	卒業研究(計画・試行②)		
16			月	総合	(推薦入試準備)		
18			水	LHR	進路探求講座		
20			金	進路	卒業研究(計画・試行③)		
23			月	総合	卒業研究(計画・試行④)		
3 学期	1	25	水	LHR	進路探求講座		
		27	金	進路	卒業研究(計画・試行⑤)		
		29	土	アカ	これまでの成果を発表しよう(具体的に取組んだ成果)		
	2	3	30	月	総合	卒業研究(構想計画書提出)	
			1	水	LHR	起業基礎発表準備	
			3	金	進路	(合否判定会議)	
		6	4	土	アカ	これまでの成果を発表しよう(具体的に取組んだ成果)	
			6	月	総合	卒業研究(本取組①)	
			8	水	LHR	起業基礎発表準備	
			10	金	進路	卒業研究(本取組②)	
13			月	総合	卒業研究(本取組③)		
15			水	LHR	研究大会準備		
17			金	進路	研究大会		
3	18	18	土	アカ	これまでの成果を発表しよう(具体的に取組んだ成果)		
		20	月	総合	卒業研究(本取組④)		
		22	水	LHR	起業基礎発表準備		
	24	24	金	進路	卒業研究(本取組⑤)		
		27	月	総合	卒業研究(本取組⑥)		
		1	水	LHR	合同HR-3年生に向けて		
		3	金	進路	学年末考査		
		6	月	総合	学年末考査		
		8	水	LHR	学年末考査		
		10	金	進路	卒業式		
9	13	13	月	進学テスト(1・2限)・卒業研究(第1回中間発表会)(3・4限)			
		15	水	LHR	(産出意見発表会)		
	17	金	進路	球技大会			
	20	月	総合	(審判の日)			
22	水	LHR	(自宅学習)				

卒業研究 平成18年度 3年次 年間計画					
学期	月	日	曜日	時間	目標
1 学期	3 4	10	月	進路	2. 中間発表において、取り組みの現状と予想及び課題等を発表する。 1. データのまとめと分析を行う。(表とグラフを活用) 2. 分析結果もとに考察する。 3. 草構成を行う。 1. 論文あるいは報告書を完成させる。 2. データ提供者への結果を報告する。
		11	火	進路	
		14	金	総・卒	
	4	17	月	進路	
		18	火	進路	
		21	金	総・卒	
		24	月	進路	
		25	火	進路	
		28	金	総・卒	
		1	月	進路	
		2	火	進路	
		5	金	総・卒	
		8	月	進路	
	5	9	火	進路	
		12	金	総・卒	
		15	月	進路	
		16	火	進路	
		19	金	総・卒	
		22	月	進路	
		23	火	進路	
		26	金	総・卒	
		29	月	進路	
		30	火	進路	
	6	2	金	総・卒	
		5	月	進路	
		6	火	進路	
		9	金	総・卒	
		12	月	進路	
		13	火	進路	
		16	金	総・卒	
19		月	進路		
20		火	進路		
23		金	総・卒		
7	26	月	進路		
	27	火	進路		
	30	金	総・卒		
	3	月	進路		
	4	火	進路		
	7	金	総・卒		
	10	月	進路		
	11	火	進路		
	12	水	進路		
	13	木	進路		
8	14	金	総・卒		
	17	月	進路		
	18	火	進路		
	19	水	進路		
	20	木	進路		
	夏 季 休 息				
	8	1	金	総・卒	
	4	月	進路		
	5	火	進路		
	8	金	総・卒		
9	11	月	進路		
	12	火	進路		
	15	金	総・卒		
	18	月	進路		

	19	火	進路			
	22	金	総・卒	黎明祭準備		
	25	月	進路	黎明祭片付け		
	26	火	進路	黎明祭代休(セント・横試)		
	29	金	総・卒			
2 学 期	2	月	進路		2. 発表が制限時間に収まる よう、発表の練習をする。	
	3	火	進路			
	6	金	総・卒	系列内発表会資料提出(レジメ・パワーポイント)		
	9	月	進路	体育の日		
	10	火	進路			
	13	金	総・卒	系列内発表会		
	16	月	進路	中間審査週間		
	17	火	進路			
	20	金	総・卒			1. 報告書の最終校正
	23	月	進路			
	24	火	進路		2. 発表資料の校正	
	27	金	総・卒			
	30	月	進路			
	31	火	進路	修正版報告書締切		
	3	金	総・卒	文化の日	3. 発表準備	
	6	月	進路			
	7	火	進路			
	10	金	総・卒	学年発表会資料提出(レジメ・パワーポイント)		
	13	月	進路			
	14	火	進路			
	15	水	午後	学年発表会		
	17	金	総・卒	まとめ・反省		
	20	月	進路	マリン大会代休		
	21	火	進路			
	24	金	総・卒	期末考査		
	27	月	進路	＃		
	28	火	進路	＃		
	3 学 期	1	金	総・卒		1. 卒業研究終了者 進路に合わせ自学自習
		4	月	進路		
		5	火	進路		
		8	金	総・卒		
11		月	進路			
12		火	進路			
15		金	総・卒		2. 卒業研究未終了者 卒業研究	
18		月	進路			
19		火	進路			
22		金	総・卒	長期休業直前指導・通知票渡し		
8		月	進路	成人の日		
9		火	進路			
12		金	総・卒			
15		月	進路	一般推薦入試準備		
16		火	進路	一般推薦入試		
19		金	総・卒			
22	月	進路				
23	火	進路				
26	金	総・卒	3年次期末考査			
29	月	進路	＃			
30	火	進路	＃			

5. 各発表会

(1)第1回中間発表会（系列・分野別発表）

- ①発表時間 発表3分 質疑1～2分
- ②発表形態
 - ・パワーポイント発表（スライドの枚数は6枚以内）
- ③提出資料
 - ・発表用パワーポイントファイル、印刷物
 - ・卒業研究構想計画書（修正済のもの）
- ④評価
 - ・発表者ごとに評価（評価表は発表者へ）

(2)第2回中間発表会（系列・分野別発表）

- ①発表時間 発表7～9分（質疑1～2分含）
- ②発表形態
 - ・パワーポイント発表（スライドの枚数は自由）
- ③提出資料
 - ・発表用パワーポイントファイル、印刷物
 - ・レジュメ
- ④評価
 - ・発表者ごとに評価（評価表は発表者へ）

(3)系列内発表会（系列・分野別発表、系列代表者選出）

1・2年生原則見学とする

- ①発表時間 発表7～9分（質疑1～2分含）
- ②発表形態
 - ・パワーポイント発表（スライドの枚数は自由）
- ③提出資料
 - ・発表用パワーポイントファイル、印刷物
 - ・レジュメファイル、印刷物
- ④評価
 - ・発表者ごとに評価（評価表は発表者へ）

⑤系列代表者の選出

- ・系列担当者の評価（報告書を加味）により選出

(4)学年発表会（系列代表者13名による発表、研究大会発表者選出）

- ①発表時間 発表10分 質疑2分
- ②発表形態
 - ・パワーポイント発表（スライドの枚数は自由）
- ③提出資料
 - ・発表用パワーポイントファイル、印刷物
 - ・レジュメファイル、印刷物
- ④評価
 - ・発表者ごとに評価（評価表は卒業研究係へ）
- ⑤研究大会発表者の選出

- ・生徒の評価：教員の評価の比率を1：1とし、選出。

(5)校内発表会

- ①発表時間 発表15分 質疑5分
- ②発表形態
 - ・パワーポイント発表（スライドの枚数は自由）
- ③提出資料
 - ・発表用パワーポイントファイル、印刷物
 - ・レジュメファイル、印刷物
- ④評価
 - ・発表者ごとに評価
- ⑤表彰
 - ・審査員の評価により選出

6. 評価・評定

(1)1学期評価

[評価項目]

- ①第2回中間発表会（20点満点）
プレゼン・独自性・構成・進捗（各5点満点）
- ②中間報告書（20点満点）
進捗度・論理性・表現力・独自性（各5点満点）
- ③平常授業点（10点満点）
卒業研究の記録・普段の研究態度：欠課時数（7：3）
（欠課時数：1～4→-1 5～8→-2 9→-3）

*①から③の合計（50点満点）で、評定1～5に換算する。

[評価・評定の調整]

評価会議を行い、評価が妥当かどうか検討し、調整する。

(2)2学期評価

[評価項目]

- ①系列内発表会（20点満点）
プレゼン・独自性・論理性・取り組み（各5点満点）
- ②最終報告書（15点満点）
独自性・論理性・提出（各5点満点）
- ③出欠点（5点満点）
金曜5・6限の欠課2時間毎に1点減点
- ④平常点（5点満点）
普段の研究態度等（調整点的な意味合い）

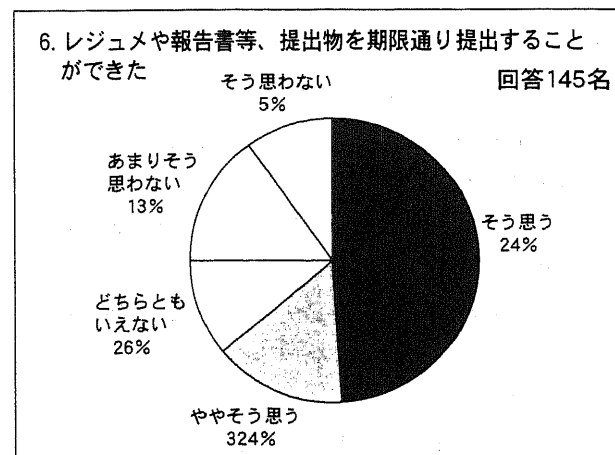
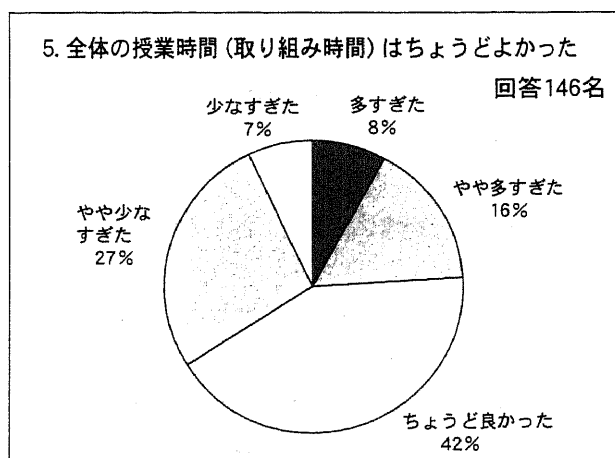
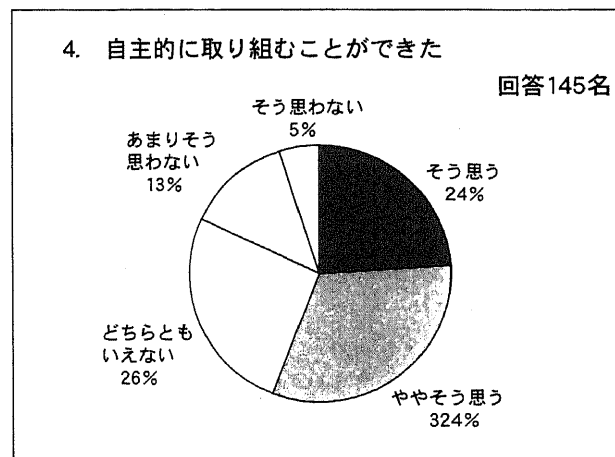
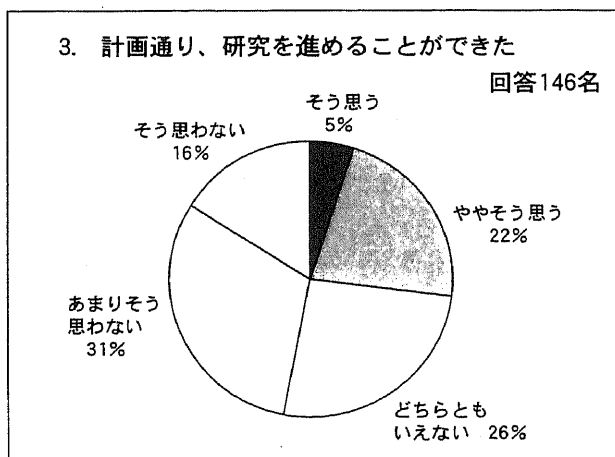
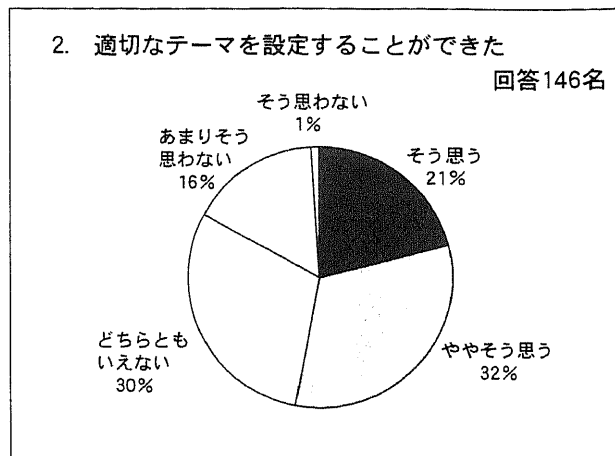
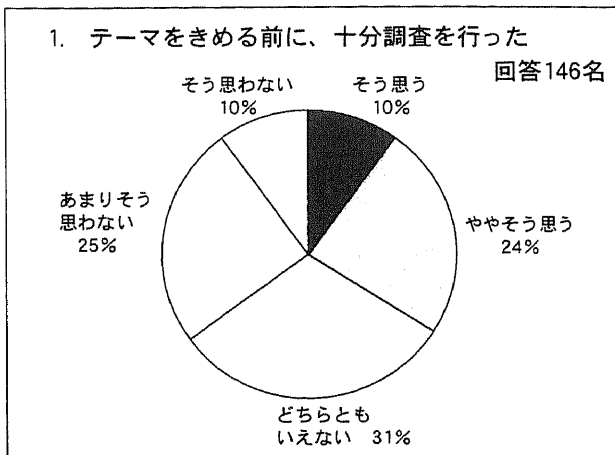
*①から④の合計（45点満点）で、評定1～5に換算する。

(3) 3 学期および学年評定

1 学期、2 学期の評価点を合計し、調整点を加え

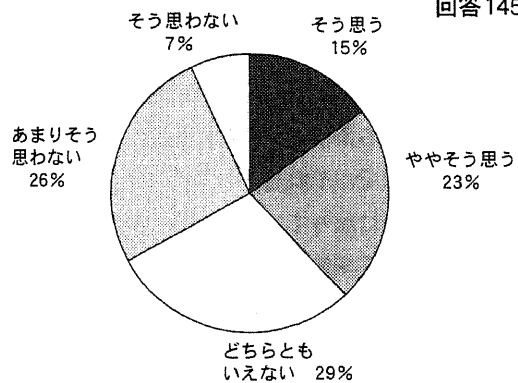
たものを 3 学期および学年評定とする。

7. アンケート結果



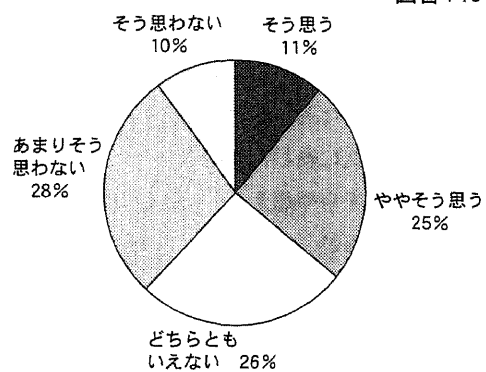
7. プレゼンの準備はよくできた

回答145名



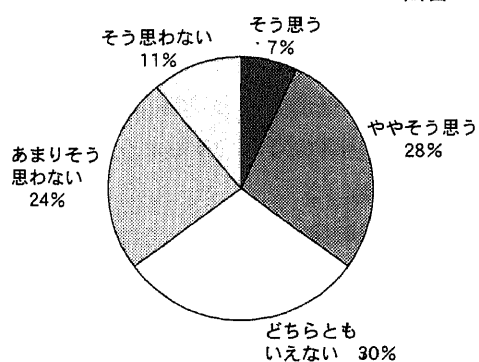
8. 研究内容をうまくプレゼンできた

回答146名



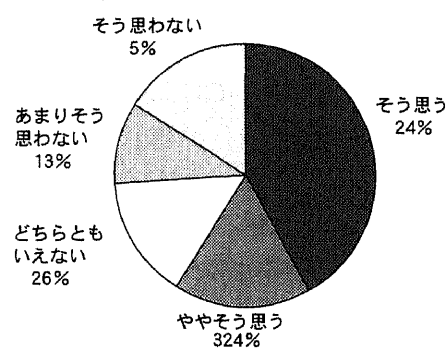
9. 研究報告書は満足いくものを作成できた

回答145名



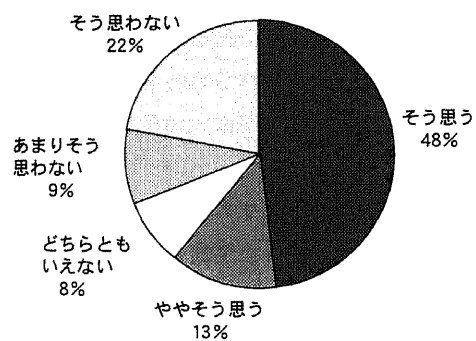
10. 卒研の内容に関係した進路を選択した

回答145名



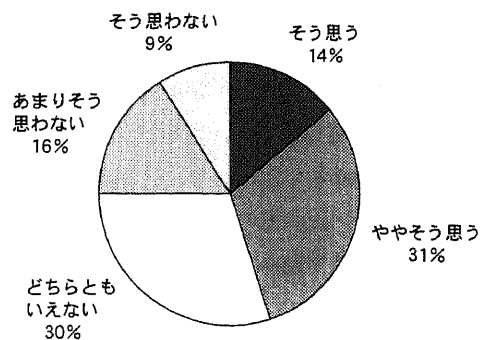
11. 卒研の内容に関係した進路に進むことができた
(進路決定者のみ記入しなさい)

回答104名



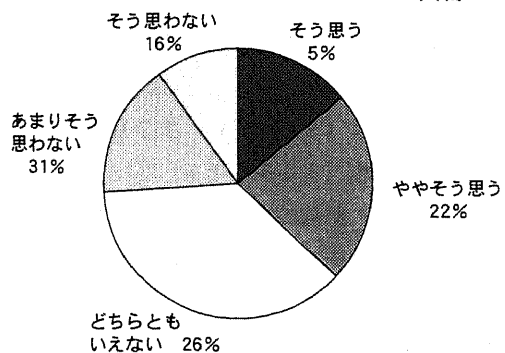
12. 全般的に満足いく（役立つ）内容であった

回答146名



13. 卒業研究を通して自身がついた

回答146名



全般的に見て、肯定的な意見が半数を超えていたのが、「2.適切なテーマを設定することができた」、「4.自主的に取り組むことができた」、「6.レジュメや報告書等、提出物を期限通り提出することができた」、「10.卒研の内容に関係した進路を選択した」、「11.卒研の内容に関連した進路に進むことができた」の5項目であるが、いずれも半数をやや超えた程度である。その他の項目は多少の差はあるが「肯定的」・「否定的」・「どちらともいえない」ともほぼ同じ割合で意見が分かれていた。生徒もいろいろな考えがあり、取り組む姿勢も分かっていたことが窺えるが、進路に大きな影響を与えていることは間違いないようである。

また、「良かった点」、「良くなかった点」についての記述では、「良かった点」として挙げられているのが、①進路関係（面接で聞かれた・入試に役立てる事ができた等）②興味・関心分野への自主的な取り組み（自分の興味があることをテーマにできるのは良かった・自分の好きな事を存分に取り組むことができた等）③自信・達成感・満足感（卒研を通して、自分で問題を解決していく力が身につき自信となった・色々な知識が身に付いたと思う・多くの発見がありとてもためになった等）に関しての事が多かった。「良くなかった点」としては、①授業時間・提出期限（時間が足りなかった・月、火が短すぎて何もできない・完成報告書の提出が早すぎる・卒業研究の提出期限とテストなどが重なっていて大変だった等）②研究内容・結果（研究の内容が薄く納得いかなかった・研究ではなく調べ学習になってしまった・テーマがやっぱり難しかった・やっぱり進路に関係していた方がよかったかもしれない等）③計画・取組姿勢（計画性がなかった・計画通りに進められなかった・最初の頃の情熱が最後まで続かなかった等）に関しての事が多かった。

8. 問題点・検討事項

（委員会での意見）

・担当者の構成

①引継事項等がうまく伝わっていない。校務分掌上、前年度の担当者の中から、引き継ぎ役として、はっきりと担当者を設けることが必要である。系列発表会では1・2年生を見学させることが原則となっていたが、2年生のみの見学となってしまった事もその一つである。

・卒業研究の意義

①意義を進路のためだけに位置づけると、進路に関係

のない生徒のモチベーションが低下する。AC・AOや推薦では完成作品が必要とされるのではない。高校時代に打ち込んで来たこと、やって来たことがあれば、成功体験（失敗した人はその分析）でその人はそれ以外の事でもやれる。何かが出来た人材を求めているので、それをアピールする。分析されるなど本人の物になっていけばいい。時期を早めたのは、計画ではなく体験がほしいからで、完成までは求めてなかったはず。また、それが進路に繋がるのであれば、利用しよう。進路も絡むので入れたのであって、進路が先走りするのはおかしい。

②そもそも本来は進路のための卒業研究ではないはず。→学校の教育方針として目的意識を持った進学を推進を謳っている以上、進路を意識した取り組みを、生徒に促すことが、おかしいことなのか。

③進路に影響力を持つことは確かだし、そのような方針のもと、早めに準備をするよう動いてきたという現状がある。

・報告書の提出時期

①9月1日だと早すぎる。早めに完成した生徒は残りの時間遊んでしまう。

②9月1日だと早すぎる。まじめな生徒ほど早く完成させようとクオリティーが高まらないケースが見られる。

→今回意識的に早めたことは、やはり進路を意識したことが大きく、そのため、取り組みの開始も早め、2年次の10月から始めた。この時期に完成させるにはどうしたらよいかを考えた方でも良いのではないか。

③9月1日でよかった。早めに一区切りできたため、それを受験に利用できた生徒も見られた。

④9月1日「完成原稿」としてしまうと、言葉が重すぎるのではないか。

⑤9月1日だと早すぎる。夏休み明けすぐ提出だと、一度も本格的な指導を行わずに完成させなければならない状況になりやすい。夏休み明けに、一度指導教官が見て、修正を加えてから完成原稿の提出ができるようなスケジュールにする。

→第1稿5枚（5～6月）、第2稿10枚（9月）
最終20枚（10～11月）

⑥発表会の後、原稿の提出という流れを作った方が、原稿のクオリティーは上げられるのでは。

・パソコン室の管理

①起業基礎や進路研究などとパソコン室の使用が重な

り、混雑してしまう。

→前もって年間学習計画の中で、調整していく。

②放課後、誰もパソコン室を管理していないため、紙の無駄遣いや下校時間の超過が起きている。

→使用するのは3年次だけではないので、他の学年とも協力して管理する必要がある。パソコン室監督の徹底。

→誰もが関係するので、鍵当番がパソコン室の管理を行ったらどうか。

以上、様々な意見が述べられ、問題点が出されたが、統一した結論に至ってはいない。なかなか一つの意見にまとめることは難しいものである。しかし、このような議論の過程を次の卒業研究委員会にきちんと伝えることが必要で、それを踏まえた上で、各年度の卒業研究委員会が判断し、計画を立てることが重要である。今後も、進路に大きな影響を与えていくことは確かであり、本校の大きな柱として、より質の高い「卒業研究」がなされる環境を築いていかなければと考えている。